

延辺地域朝鮮語における友人談話の発話形式 —文末形式におけるソウル方言との比較から—

高木 丈也
東京大学

1. はじめに

中国東北地方（吉林省、遼寧省、黒龍江省）には、日常の言語生活において朝鮮語を使用する人々が多く居住している。彼らは、朝鮮族と呼ばれ、主に 19 世紀から 20 世紀初頭にかけて貧困や戦乱、日本による支配などを理由に朝鮮半島から移住した人々の末裔である。『中国 2010 年人口普查資料』（第 6 回人口センサス）によると、朝鮮族の総人口は約 183 万人で、朝鮮半島以外に居住する朝鮮語話者としては、最も多い人口を擁する地域となっている¹⁾。

彼らの話す言語は「中国朝鮮語」と呼ばれ、朝鮮半島で使用される朝鮮語を基層としたものである²⁾。その具体的変種は、移住世代の出身地、移住後の中国国内における移動経緯など様々な要因によって決定されるが、一般に吉林省延辺、黒龍江省牡丹江には咸鏡道方言を、遼寧省東部には平安道方言を、黒龍江省西北、西南部には慶尚道方言を基層言語とする話者が多いとされている³⁾。

こうした中国朝鮮語について、言語学の枠組みで扱った論考をみると、菅野 (1982)、럼광호 (1990)、문창덕 (1990)、梅田 (1993)、전학석 (1996, 1998)、福井 (1999)、최명옥외 (2002)、千惠蘭 (2005)、宮下 (2007)、柴 (2007)、곽충구외 (2008)、방채암 (2008)、최화 (2012)、김순희 (2014) など、少なからず存在していることがわかる。ただし、現在までのところ発表された一連の論考は、バイリンガリズムや言語政策、あるいは方言学（特に音韻論）の枠組みにおけるものが大部分を占めており、「話しことば」そのものを扱ったものは、そう多くないのが現状である。そこで、本稿では、このような状況に鑑み、中国朝鮮語の談話における特徴について「発話形式」という観点から分析を試みることにする。具体的には、変種としては、中国朝鮮語の中でも延辺地域朝鮮語（以下、延辺地域語）を、場面としては友人談話を取り上げ、韓国語ソウル方言（以下、ソウル方言）との比較を通して考察していく⁴⁾。

2. 先行研究

本稿では、談話における発話形式の特徴をみる際に、文の核となる文末形式に注目する。そこで、本章では、まず先行研究における中国朝鮮語と韓国

語の終止形語尾について待遇法という観点から整理した後で、分析変種である延辺地域語に関する先行研究を概観することにする⁵⁾。

2.1. 待遇法に関する先行研究

ここでは、中国朝鮮語と韓国語における終止形語尾と待遇法の関係について概観した後で、本稿で分析対象とする友人談話において重要な待遇等級についてみることにする。

2.1.1. 終止形語尾と待遇法体系

まずは、終止形語尾と待遇法についてみる。具体的には、中国朝鮮語は 동북 3 성 《조선어문법》 편찬소조 (1983) (以下、『조선어문법』とする) の「계칭」(階称)⁶⁾、韓国語는 서정수 (1984) の「존대법」(尊待法) における「청자대우」(対者待遇) の記述を参照することにより、両者の異同を確認することにする。上掲書における体系は、次ページに示す【表 1】、【表 2】のとおりである⁷⁾。

表により、それぞれの待遇法の体系をみると、まず『조선어문법』では 높임、낮춤 という 3 等級を設定していることがわかる。一方、서정수 (1984) では、一次的な分類として、公的場面などで使われる「격식체」(格式体) と、私的場面などで使われる「비격식체」(非格式体) を設定したうえで⁸⁾、それらをさらに 존대 (尊待)、비존대 (非尊待) に分け、합쇼체、하오체、하계체、해라체、해요체、해체 (반말) という計 6 等級を設定している⁹⁾。

表中で、網掛けにより示した部分が友人同士の談話で使用されうる主要な等級である。このうち『조선어문법』의 낮춤 と 서정수 (1984) 의 해라체 は、概ね共通した範疇であるとみてよいだろう。しかし、その一方で、『조선어문법』의 같음 は、「-군」、「-나」、「-ㄴ가, ㄴ까」のように 서정수 (1984) で 해체 に分類されているものもあれば、「-는가」、「-던가」のように 하계체 に分類されているものもあり、両者の対応関係は必ずしも一致していない¹⁰⁾。

【表 1】『조선어문법』(1983)における中国朝鮮語の待遇法体系

	서술식	의문식	명령식	권유식
높임	브니다/습니다, 브디다/습디다, 나이다, 리다, 아요/어요/여요, 지요	브니까/습니까, 브디까/습디까, 나йка, 리까	십시오, 세요	브시다, 자요
같은	오/소, 요, 브테/습테, 네, 테, 군, 는군, 구려, 는구려, 구만, 는구만, 더군, 더구만, 아/어/여, 지, 르걸, 더니, 더라니, 더라니까, 리, 리라, 아라/어라/여라, 르게	나, 니가, 는가, 던가, 르가, 니지, 는지, 던지, 르지, 르는지	시오, 게, 게나, 구려, 라구	기요, 세, 브세, 자구
낮춤	다, 니다, 는다, 구나, 는 구나, 누나, 더구나, 노라, 더라, 르라, 마	냐, 느냐, 더냐, 르소냐, 라, 니	라, 아라/어라/여라, 렘, 러무나, 너라, 저라	자, 자꾸나

(p.217 (改変))

【表 2】서정수 (1984)における韓国語の待遇法体系

격식체 (Formal Style)					
등급		서술형	의문형	명령형	정유형
존대 [+Respect]	아주높임 (합쇼체)	(오)브니다 습니다 (이)을시다 (오)옵니다 (으옵)나이다	(오)브니까 습니까 (오)옵니까 (으옵)나йка	(오)십시오 <(오)시지요> (으옵)소서	(오)십시오 <(오)시지요>
	예사높임 (하오체)	(오)오 소 (오)우 구려 (오)브디다 습니다	(오)오 소 (오)우 (오)브디다 습니다	(오)오 소 (오)우 구려	(오)브시다
비존대 [-Respect]	예사낮춤 (하게체)	네 (오)르세 (오)르세 테	는가 (오)니까 던가	게 게나	세
	아주낮춤 (해라체)	니/는다 구나 (오)마 더라	니 (느)나 (오)라 더냐	어라/아라 (오)라 (오)러무나 (오)렘	자 자꾸나
비격식체 (Informal Style)					
등급		서술형	의문형	명령형	정유형
존대	두루높임 (해요체)	어요 지요 (느)군요 (오)르걸요 테요 더군요	어요 지요 나요 은가요 (오)르까요 던가요	어요 지요	어요 지요
비존대	두루낮춤 (해체, 반말)	어 이야 지 군	어 이야 지 나	어 지	어 지

(현행 청자대우의 양식과 등급 (現行の対者待遇の様式と等級)、p.39)

2.1.2. 待遇法体系における해라体と해体

待遇法の体系を6等級と捉えた場合、友人談話において多く出現することが予想されるのは、해라体と해体(반말とも呼ばれる)である¹¹⁾。そこで、ここでは、先行研究において、これらが待遇法上のいかなる位置に属するものとして扱われてきたかを概観することにする。

まず、해라体は、話しことば、書きことばを問わず広く使用される等級であるが、先行研究におけるその記述をみると、一様に最も低い待遇等級に位置づけられていることがわかる。一方で、해体の位置については、様々な議論がなされてきており、諸説が存在する状況にある。そこで、ここでは、해体の待遇法上の位置に関する論考の中から代表的なものを(1)待遇法の範疇外に設定する説、(2)格式体に設定する説、(3)非格式体に設定する説の3種に分類し、みてることにしよう。それぞれの説を整理すると以下のようになる¹²⁾：

【表3】待遇法における해体の位置

(1) 範疇外	최현배(1934)	마침법의 등분 (終止形の等分)	①아주높임(합쇼체)、②높임(하오체)、③낮춤(하게체)、 ④아주낮춤(해라체)、⑤등외(반말)
	이희승(1968)	존비법 (尊卑法)	①하소서체、②합쇼체、③하오체、④하게체、⑤해라체
(2) 格式体	김희상(1911)	토(吐)	①하압시오(上待)、②하오(中待)、③반말(半待)、 ④하게(半半待)、⑤하야라(及下待) ※「ト」は、「아래아」。
	허용(1968)	상대 존대법 (對者尊待法)	①갑니다、②가오、③가네、④간다、⑤반말
	김민수, 이기문 (1968)	존대법 (尊待法)	①하나이다/하옵나이다체、②합니다/하옵니다체、③하오체、 ④하게체、⑤반말、⑥해라체
	박영순(1993)	문장어미 (文章語尾)	①했습시다(최존대체:最尊待体)、②했어요(존대체:尊待体)、 ③했소(준존대체:準尊待体)、④했네(하게체)、⑤했어(해체)、 ⑥했다(해라체)
(3) 非格式体	서정수(1984)	청자대우 (對者待遇)	①아주높임(합쇼체)、②예사높임(하오체)、③예사낮춤(하게체)、 ④아주낮춤(해라체)、
	남기심, 고영근 (1995)	상대 높임법 (對者待遇法)	⑤두루높임(혜요체)、⑥두루낮춤(해체, 반말)

まず、待遇法の範疇外に設定する説としては、최현배(1934) や이희승(1968) などがあげられる。両者とも待遇法を5等級に分けているが、최현배(1934) では「등외」(等外)として設定しているのに対し、이희승(1968) では、「해라도 하게도 하오도 아니요, 말을 그저 어물어물하여 끝을 아물리지 않는 말」(p.101、해라体でも하게体でも하오体でもなく、ただはつきりせず、言い切らない言葉)として、「尊卑法外」に位置づけている。

次に、格式体に設定する説としては、김희상(1911)、허용(1968)、김민수, 이기문(1968)、박영순(1993) などがある。このうち김희상(1911)、허용(1968) は、待遇法を5等級に分類したうえで、하오体と하게体の間に位

置するものとみており¹³⁾、김민수, 이기문 (1968)、박영순 (1993) は、待遇法を6等級に分類したうえで、해체 (반말) を하계체と해라体の間に位置するものとみている。

最後に、非格式体に設定する説としては、서정수 (1984)、남기심, 고영근 (1995) などがある。両者とも待遇法を6等級に分けており、해체 (반말) については、格式体である예사낮춤 (하계체) と아주낮춤 (해라체) に代わって遍く使われることから「두루낮춤」に分類している¹⁴⁾。

なお、このほかに、現代韓国語の談話における「-다」(해라体) と「-어」(해체) について分析したものに김병진 (2014) がある。同論文では、윤석민 (2000) をふまえながら、両者を区分するものは「格式／非格式」の違いではなく、「聴者を積極的に認識しているか、そうでないか」(p.99) にあると述べている。また、発話内容の伝達に際し、「-다」は「間接性」を有しているのに対して、「-어」は「直接性」を有しており、それが要因となって、前者は単独的場面（聴者を強く認識しない場合）で、後者は相関的場面（聴者を強く認識する場合）で多く現れるとしている¹⁵⁾。

また、長嶺 (2008) では、韓国語の「パンマル」と日本語の「ため口」の違いについて考察している¹⁶⁾。同論文によると、「パンマル」の丁寧度は「高くもないが低くもない」のに対し、「ため口」の丁寧度は「低い」としており、両言語の違いの一側面を捉えている。しかし、「⑤非格式体の해체 (hae-che) と⑥格式体の해라체 (haera-che) が『パンマル』である」(p.21) という記述にみられるように、「パンマル」そのものの定義が曖昧であるため、分析対象が不明確である感がぬぐえない。

2.2. 延辺地域語に関する先行研究

次に、中国朝鮮語の中でも延辺地域語に関する論考をみていく。なお、ここでは、本稿で分析対象となる「話しことば」を対象にしたものをみる。

千恵蘭 (2005) は、延辺地域語の聞き手待遇の使用状況について分析したものである。同論文では、延辺地域語の文末形式の中では、「하오体」が最も多く使用されており、中国朝鮮語の言語規範で言われる対等関係のみではなく、目上・目下に対しても、話し手の世代を問わず多く用いられているとしている。ただし、同論文は、質問紙調査の結果を分析したものであるうえ、「하오体」以外の形式については具体的記述がないため、今後言語事実に基づいたより体系的な記述をする必要があるといえる。

柴 (2007) は、延吉市在住の朝鮮族の学生に実施した聞き取り調査の結果をもとに、延辺地域語の語彙的特徴（名詞、動詞、形容詞、副詞、慣用句など）、文法的特徴（動詞、接続語尾、終止語尾、語法）を整理したものである。同論文では、辞書や文法書には現れない話しことばに特有な語形を多

く提示しているが、語尾類については、待遇法に関する記述がないため、それらが対話者との関係においていかなる使用様相をみせるかについては、さらなる分析の余地がある¹⁷⁾。

방채암 (2008) は、延辺地域語の終止形語尾を分析したものである。同論文では、叙述形、疑問形、命令形、勧誘形、感嘆形という 5 つの文法範疇について、待遇法ごとに語尾の記述をしている。ただし、同論文で分析対象としている談話の被験者情報は、70 代の女性 1 名しか提示されておらず、延辺地域語の話しことば全体を記述したとはいいいにくい。

최화 (2012) は、延辺地域語における 반말について分析した数少ない研究である。同論文では、延辺地域語には、「-아/어」が存在しない代わりに「-지므(早)」という語尾が平叙形、疑問形、命令形として使用されており、하십시오体よりは低く、해라体よりは高い等級に位置づけられるとしている。ただし、この論文では、調査に関する記述が一切ないので、実際の言語使用をどこまで反映したものであるかは、注意する必要がある。

김순희 (2014) は、中国朝鮮語の終結法 (종결법) を分析したものである。同書では、説明法、感嘆法、約束法、疑問法、命令法、許諾法、警戒法、共同法という 8 種の終結法について、待遇法ごとに語尾を記述している。ただし、分析対象として、小説や文法書の記述 (書きことば) を使用しているため、話しことばの特徴は、十分に記述されていない。

以上、本章では、既存の研究における終止形語尾と待遇法の関係、および 해체 の位置について整理したうえで、延辺地域語における話しことばの研究を概観した。2.1. でみた諸研究は、待遇法全体を体系的に記述したものであったが、本稿が分析対象とする友人談話においては、해체 と 해라体 はいかなる関係を示すのであろうか。また、延辺地域語の話しことばに関する研究が圧倒的に不足する中、当変種における発話形式は、ソウル方言といかなる異同をみせるのだろうか。本稿では、こうした点に着目し、両変種の話しことばの姿に接近していきたい。

3. 研究の枠組み

本章では、第 2 章でみた先行研究をふまえたうえで、延辺地域語とソウル方言を比較するという本稿の視座に立ち、発話文、および待遇法の分類基準を検討する。合わせて談話採録調査、文字化の概要についても述べることにする。

3.1. 本稿の分析方法

3.1.1. 本稿における発話文分類の枠組み

2.1.1. では、終止形語尾と待遇法の関係について概観し、発話文は、その

文末に現れる終止形語尾によって、いくつかの待遇等級に分類されることを確認した。しかし、実際の談話において実現される発話文は、すべてがそのように単純な分類ができるものではない。すなわち、文末に終止形語尾が現れない発話文や、「あいづち」などにみられる間投詞による発話文の存在も前提としなければならない。そこで、本稿では、こうした事実をも念頭に置いたうえで、談話に現れるすべての発話文をまず、高木（2013b, 2015b）における分類法を用いて、（１）完全文、（２）中途終了発話文、（３）フィラー、（４）漢語（中国語）の４種に分類し、このうち（１）完全文の分析において、終止形語尾と待遇法の関係を扱うことにする。（１）～（３）には以下のような定義を与える：

【本稿における発話文分類とその定義】

（１）完全文

1. 終止形語尾が文末に現れた発話文。直説法のみならず、目撃法の語尾によるものも含む。
2. 「-아/어」（-（だ、する）よ）といった断定形の語尾で終わる発話文のほかに、確言形「-지」（-（だ、する）ね）、詠嘆形「-(느)군/구나」（-（だ、する）なあ）、確認形「-거든」（-（な、する）んだ）、意思形「-(으)ㄴ게」（-（する）からね）などで終わる発話文も含む¹⁸⁾。

（２）中途終了発話文

1. 文終止機能を持つ語尾によって統合される述部が、そもそも存在しないか、末尾に現れていない発話文。すなわち、用言に本来、文終止機能を持たない要素が結合して終了する発話文、あるいは、用言以外の品詞により終了する発話文。
2. 倒置や付け足し、くり返しにより実現された発話文や、対話者の発話との重なりにより終了した発話文も、結果として上記条件を満たすものであれば、同発話文として認定する。
3. 後続発話において話者が交替した場合のみならず、同一話者が発話を継続した場合も含む。その場合、後続発話との間に 2.0 秒以上の時間差が認められた場合に認定対象とする。
4. ただし、上記条件を満たす場合であっても、フィラー単独による発話文は、認定対象から除外する。

（３）フィラー

フィラーが単独で現れている発話。ただし、金珍娥（2010）で「文法的な対立項」を持つとされる「그래요/그래」（そうです/そうだよ）の類については、述部を持つ発話であるという理由から、発話形式の分類においては、

(1) 完全文として分類する。

本稿では、これらのうち、実質的発話となる(1) 完全文、(2) 中途終了発話文の出現様相を形式という観点から分析し、延辺地域語とソウル方言の談話を構成する発話文の特徴の解明を試みることにする。

3.1.2. 本稿における待遇法の枠組み

前節でみた発話文の分類の中でも「完全文」と「中途終了発話文」が本稿の分析対象になるが、前者については、それを待遇法により分類し、出現形式の分析を行なう。

本稿では、延辺地域語、ソウル方言における友人談話の待遇法等級に하오体、해라体、해요体、해体の4等級を認める。ただし、これらの名称は、主に韓国の国語学において使用されているものであり、延辺地域語における文末形式の使用実態には必ずしも適合しない。そこで、本稿では、こうした混乱を避けるために、以降の章で待遇法に言及する際には、【表4】に示すとおり、日本の朝鮮語学で使用される術語を用いることにする¹⁹⁾：

【表4】本稿における待遇法の名称

韓国の国語学 における術語	本稿における名称
하오体	中称
해라体	下称
해요体	略待上称
해体	略待

ところで、2.1.1.でみたように、中国朝鮮語における갈음は、韓国語と待遇法上の位置が異なる場合もある。そのため、本稿では、略待、下称に以下のような定義を設けることにする：

【本稿における略待、下称の定義】

略待

1. 形態論的に「-요」との結合ができる形式²⁰⁾。
2. 方言形においては、「-요」との結合形を持たない場合であっても、갈음、냔춤で話す親しい相手(対等、目下)に遍く使用が可能な形式であれば、1. に準じる。目上の相手に使用が可能な形式を含む。

下称

1. 形態論的に「-요」との結合ができない形式（『조선어문법』で

낯춤, 서정수 (1984) で해라体に分類される形式)。

2. 方言形においては、낯춤で話す相手(目下、対等)に遍く使用が可能な形式であれば、1. に準じる。ただし、目上の相手に使用が可能な形式は含まない。

本稿では「-는가」、「-던가」は、「-요」との結合が可能であるとの理由から、略待に分類する²¹⁾。また、各定義中における「遍く使用が可能」であるか、どうかの判断は、延辺地域語話者へのフォローアップ調査によることにする。

3.2. 調査、文字化の概要

本稿では、主たる分析対象として、2010年8月から2014年9月に延吉市とソウル市で、筆者が独自に採録した友人談話の音声、文字化資料と、すべての被験者に実施したフォローアップ調査(質問紙調査、インタビュー)の結果を用いる。採録した談話は、参加者の性別、年齢(差)という社会言語学的要因を考慮したうえで設定された2者間談話(各言語9談話ずつ)である。音声資料の文字化にあたっては、宇佐美(2007)の「改訂版: 基本的な文字化の原則」を朝鮮語/韓国語表記の慣習に合わせて転写することとし、文字化する範囲と時間は、各談話とも談話開始から7分00秒とした。また、本稿では金珍娥(2004a, 2004b, 2013)の説をふまえ、あいづち発話も独立した発話文として扱い、文字化する。談話採録の枠組み、談話の文字化で使用する主な記号は、以下のとおりである:

【表5】談話採録の枠組み

延辺地域語談話				ソウル方言談話			
談話名	談話参与者名		参与者の関係 (性別・年齢の 上下差)	談話名	談話参与者名		参与者の関係 (性別・年齢の 上下差)
	ベース(属性) 【参与者1】	対話者(属性) 【参与者2】			ベース(属性) 【参与者1】	対話者(属性) 【参与者2】	
C1	CNB1(10F)	CN1(10F)	同性・同年	K1	KNB1(10F)	KN1(10F)	同性・同年
C2		CN2(10M)	異性・同年	K2		KN2(10M)	異性・同年
C3	CNB2(10M)	CN3(10M)	同性・同年	K3	KNB2(10M)	KN3(10M)	同性・同年
C4	CNB3(20F)	CN4(20F)	同性・同年	K4	KNB3(20F)	KN4(20F)	同性・同年
C5		CN5(20M)	異性・同年	K5		KN5(20M)	異性・同年
C6	CNB4(20M)	CN6(20M)	同性・同年	K6	KNB4(20M)	KN6(20M)	同性・同年
C7	CNB5(40F)	CN7(40F)	同性・同年	K7	KNB5(40F)	KN7(40F)	同性・同年
C8		CN8(40M)	異性・同年	K8		KN8(40M)	異性・同年
C9	CNB6(40M)	CN9(40M)	同性・同年	K9	KNB6(40M)	KN9(40M)	同性・同年

[表中の記号] (凡例中、xには、数字が入る)

<談話名> Cx:延辺地域語談話(Chinese Korean)、Kx:ソウル方言談話(Korean)

<談話参与者名> CNB:延辺地域語ベース(Chinese Korean Native speaker Base)

KNB:ソウル方言ベース(Korean Native speaker Base)

CNx/KNx:延辺地域語対話者/ソウル方言対話者

<属性 = ()内> [年代]10:10 代後半、20:20 代後半、40:40 代前半、
[性別]M:男性(Male)、F:女性(Female)

【表 6】談話の文字化で使用する主な記号（宇佐美（2007）による）

記号	意味
.	発話文の終了（非疑問文）
？.	〃（疑問文）
…，（三点リーダー）	中途終了発話文（非疑問文）
…？．（三点リーダー）	〃（疑問文）
[↑] [→] [↓]	イントネーション
<発話文>{< } 【 【.	実質的発話の重複、割り込み（先行発話）
】】<発話文>{> }.	〃（後続発話）
<웃음> <한숨> <감탄>	笑い、ため息、感嘆を表す発話の挿入
…（あいづち発話．）…，	対話者によるあいづち発話の重複、割り込み

以上、本章では、発話文、および待遇法の分類基準の構築を行なうとともに、調査、文字化の概要についても示した。次章では、これらをふまえ、実際の談話における発話文の出現様相を分析していくことにする。

4. 分析

本章では、実際の談話における発話形式について具体的分析を行なう。まずは、談話における発話文の出現を、3.1.1.でみた発話文の分類に基づき計量化したデータをみておくことにしよう²²⁾：

【表 7】発話文の形式ごとの出現数と生起比率

	延辺地域語	ソウル方言	p値
完全文	927(51.8%)	711 (46.1%)	0.001 *
中途終了発話文	560(31.3%)	548 (35.6%)	0.011
フィラー	279(15.6%)	282 (18.3%)	0.043
漢語	22(1.2%)	0 (0%)	0.000 *
合計	1,788(100%)	1,541(100%)	

表をみると、談話における発話文は、延辺地域語、ソウル方言ともに完全文、中途終了発話文、フィラーという出現順を示していることがわかる。しかし、両言語の差異に注目すると、完全文は延辺地域語で、中途終了発話文はソウル方言で高い生起比率を示していること、フィラーは、ほかの項目に比べると大きな違いをみせないこと、延辺地域語における漢語の発話は、それほど多い出現をみせないことが確認される²³⁾。次節以降では、これらのうち、完全文、中途終了発話文について項目ごとに分析していくことにする。

4.1. 完全文

まずは、完全文についてみる。3.1.2.でみた待遇法による分類を生起比率順に示すと、以下のようになる：

【表 8】完全文の待遇法ごとの出現数と生起比率

	延辺地域語	ソウル方言	p値
下称	533 (57.5%)	103 (14.5%)	0.000 *
略待	300 (32.4%)	605 (85.1%)	0.000 *
中称	93 (10.0%)	0 (0%)	0.000 *
略待上称	1 (0.1%)	3 (0.4%)	0.440
合計	927 (100%)	711 (100%)	

表をみると、延辺地域語では下称が、ソウル方言では略待が圧倒的に高い生起比率をみせていることがわかる。また、待遇法上の等級は、概ね延辺地域語では3等級に、ソウル方言では2等級に分布しており、延辺地域語においては中称の使用が特徴的であることも確認される²⁴⁾。以下では、出現の多かった等級について用例とともにみていくことにする。

4.1.1. 下称

まずは、下称についてみる。これは延辺地域語において圧倒的に高い使用率を示すもので、以下のような形式が確認された：

【表 9】下称の形式ごとの出現数と生起比率

		延辺地域語	ソウル方言	p値
共通	①「-다」	205 (38.5%)	50 (48.5%)	0.072
	②「-냐, 니」	73 (13.7%)	26 (25.2%)	0.005 *
	③「-더라」	35 (6.6%)	8 (7.8%)	0.818
	④「-구나」	18 (3.4%)	6 (5.8%)	0.362
	⑤「-아/어라」	10 (1.9%)	7 (6.8%)	0.012
	⑥「-자」	2 (0.4%)	6 (5.8%)	0.000 *
非共通	⑦「-채」	139 (26.1%)		0.000 *
	⑧「-아/어」	24 (4.5%)		0.056
	⑨「-매」	18 (3.4%)		0.117
	⑩「-데」	9 (1.7%)		0.383
合計		533 (100%)	103 (100%)	

表をみると、下称の語尾は、延辺地域語、ソウル方言において共通する形式と、共通しない形式に大分され、延辺地域語においては、ソウル方言では確認されない形式の出現がみられることがわかる。

4.1.1.1. 共通する形式

まず、共通する形式としては、①「-다」、②「-냐, 니」、③「-더라」、④「-구나」、⑤「-아/어라」、⑥「-자」が確認された。生起比率としては延辺地域語、ソウル方言ともに①「-다」、②「-냐, 니」の順で高く、③以下も概ね、同様の出現順を示している。ここでは、出現の多かった上位2種を取り上げる。

① 「-다」

「-다」は、下称を代表する平叙形の終止形語尾である。延辺地域語、ソウル方言ともに高い生起比率をみせているが、出現実数基準では、延辺地域語（205例）でソウル方言（50例）の約4倍と、圧倒的な差をみせている。ここで、実際の談話における「-다」の用例をみてみよう：

〔例1〕延辺地域語（20／FF）²⁵⁾

CNB	좀 너무 마이 모르는 거 같다.
CNB	그래 마이 배워줘야 되겠지.
CN4	진짜 너무 마이 모른다.
CNB	그래구 자네 술-두 좀 늘어야 된다.
CNB	너무 남자들이라는게 너무 약하다.
CN4	너무 못 마신다<한숨>.

〔訳〕 CNB：ちょっと、あまりにわかってないようだね。

CNB：そう、たくさん教えてやらなきゃ。

CN4：本当にあまりにわかってないね。

CNB：それから、あの子たち、（酒を）飲めるようにならなきゃ。

CNB：本当に男というものが弱すぎる。

CN4：あまりに飲めない<ため息>。

〔例2〕延辺地域語（10／FM）

CNB	하--<한숨>, 울다, 그, 그 가 그때 그기서 그런말 왜개 마이 했다는데….
CN2	이쁜들 뭐 어찌구 어찌구….
CN2	아--, 그걸 정말….
CNB	울다, 울다, 울다<웃음>.
CN2	와--, 왜개 속 시원하게 말하제.

〔訳〕 CNB：は--<ため息>、そうだ、あの、あの、あの、その時、あそこでそんなことたくさん言ってたって…。

CN2：きれいとはいっても、もう、ああだこうだとか……。

CN2：あー、あれ、本当に…。

CNB：そう、そう、そう<笑い>。

CN2：わー、とても気持ちよくなるくらい言ってたじゃない。

〔例3〕ソウル方言（20／FM）

KNB	<웃음>그거 과제는 열심히 냈잖아.
KN5	그치, 그거 망했지, 생명의 이해….
KNB	나 내년엔 열심히 살 거다. [↑]
KN5	<웃으면서> ‘인간과 지구환경’ 보다는 낫잖아.
KNB	<웃으면서> 아니, ‘인간과 지구환경’은 할말이 없어.
KN5	그래 하지 마.

〔訳〕 KNB：<笑い> あれ、課題は頑張って出したじゃない。

KN5 : そう、あれダメだったよ、「生命の理解」(科目名) …。

KNB : 私、来年、頑張るよ。[↑]

KN5 : <笑いながら> 「人間と地球環境」(科目名) よりはましじゃない。

KNB : <笑いながら> いや、「人間と地球環境」は、話すことがないよ。

KN5 : うん、やめなよ。

[例1]、[例2] は延辺地域語の例である。まず[例1] は、酒席での後輩の言動について話している場面であるが、ここで2人の話者は、自己の認識、態度を述べる際に、ともに「-다」を連続して使用していることがわかる。また、[例2] は、KNBがCN2の先行発話に同意し、あいづちを打つ場面であるが、ここでは「옹다」(その通りだ) という、ソウル方言では、ほぼ使用されない形式を選択していることが確認される。

一方、[例3] はソウル方言の例で、大学生である2人の話者が、履修する授業について話している場面である。ここでは、延辺地域語とは異なり、話者が自己の認識や態度を述べる際に、基本的には略待の終止形語尾を使用していることがわかる。しかし、注目すべきは、その中で、KNBが「来年は頑張る」と宣言をする発話において、「-다」を選択していることである。このようなソウル方言の「-다」は、김병건 (2014) のいう「聞き手の関心や同意を引き出す」(p.105) 効果を持つもので、あえて選択 (スピーチレベルシフト (speech level shift)) することにより、対話者への強い働きかけを示すものである²⁶⁾。

以上の例から、いわゆる相関的場面における実質的発話としての「-다」は、延辺地域語では、無標 (unmarked) の語尾として、より広い使用域を持つものに対して、ソウル方言では、方略的に選択される有標 (marked) の語尾として、その使用域が限定的であることがわかる。なお、延辺地域語では、このほかにも[例2] にみられるようなあいづち発話としての「-다」の出現がみられ、「옹다」以外にも「아이다」(違う)、「그렇다」(そうだ) などが出現し、先行発話への応答をする例が確認された。

ところで、相関的場面における「-다」は、両変種で異なる出現様相をみせているが、以下の[例4]のような単独的場面においては、いずれの変種においても類似した用法が確認された。このような例における「-다」は対話者へ向けた発話というよりは、独り言に近い発話となっている(以下には、紙面の関係により、延辺地域語の用例のみを示す) :

〔例 4〕 延辺地域語 (10/FF)

CN1	대단하다, 나두 열시에 잤는데….
CNB	가 막 그 자습실에 어제 가 혼자 했단다.
CN1	하-, 좋겠다.
CNB	사람이 없어서….

(訳) CN1:すごい、私も 10 時に寝たのに…。

KNB: あの子、もう、あの、自習室に昨日、あの子 1 人でしたんだって。

CN1: あー、いいなあ。

KNB: 人がいないから…。

このように延辺地域語とソウル方言における「-다」は、特に相関的場面の発話において異なる使用域を持つため、結果として、その談話における使用も、延辺地域語で多く、ソウル方言で少ないという違いを示すことになるのである。

② 「-냐, 니」

「-냐, 니」は、疑問形の終止形語尾で、延辺地域語では、〔例 5〕にみられるように〔야, 이〕により実現する例も確認された(全 73 例中、21 例(28.8%))。これは、語中において子音/ㄴ/が、母音/ㅏ/, /ㅓ/, /ㅜ/, /ㅠ/, /ㅗ/, /ㅣ/の初声となった場合に脱落する、という当変種の音韻論的特徴によるものである²⁷⁾：

〔例 5〕 延辺地域語 (10/MM)

CN3	PIN이 낮을수록 나쁜야?.
CNB	PIN이 낮을수록 좋구, FPS 높을수록 좋단 말이다.
CN3	어-.
CNB	하-, CF, 시험….
CN3	놀이 싶니?.
CNB	아이-, 놀기 싶지 않다.

(訳) CN3: PIN が低いほど悪いの？

CNB: PIN が低いほど良くて、FPS が高いほど良いってことだよ。

CN3: ああ。

CNB: あー、CF、試合…。

CN3: 遊びたい？

CNB: いやー、遊びたくない。

4.1.1.2. 共通しない形式

共通しない形式は、いずれも延辺地域語のみで使用されるもので、⑦「-재」、⑧「-아/어」、⑨「-때」、⑩「-데」が確認された。ここでは、出現の多かった上位 3 種を取り上げる。

⑦ 「-재」

「-재」は、語幹の種類を問わず結合可能な疑問形の終止形語尾で、柴(2007)によると、「-ㄴ/는 거 아니냐」(～じゃないの)ほどの意を持つ。ただし、上昇イントネーションだけでなく、非上昇イントネーションで実現されることもあり、談話展開上は、必ずしも対話者の応答(情報提供)を求める情報要求発話ではない²⁸⁾。この語尾は、10代から40代までの幅広い年代の話者による使用が確認されており、[例6]にみられるように[자이]により実現することがあるほか、「-재야」(または[자이야/재이야])という形で現れることもあり、その場合は「-재」に比べると確信度の高い表現となる：

[例6] 延辺地域語 (10/FF)

CN1	套题 答案지…?
CNB	아니, 그, 그 지리처럼….
CN1	거 없자이?. [↑]
CN1	있니?.
CNB	있다.
CNB	그거 주겠다재. [↓]
CN1	주겠다 해?.
CNB	응.

(訳) CN1：問題集の答案用紙…？

CNB：いや、その、その、地理みたいに…。

CN1：あれ、ないんじゃないの？ [↑]

CN1：あるの？

CNB：あるよ。

CNB：それ、くれるって言うのよ。[↓]

CN1：くれるって言っていたの？

CNB：うん。

⑧ 「-아/어」

「-아/어」は、ソウル方言に多くみられる略待と形態こそ同じであるが、その意味領域は異なり、최화(2012)にも記述があるように「-았/었-」(過去)が通時的に開音節化したものである。以下の[例7]の場合も「한 몇개 해?」という発話が、「나 挂课했다」(俺、試験に落ちたよ)という先行発話に対する質問発話として現れていることから、これが過去の意を持つことがわかる。なお、この語尾は、(1) その用例がすべて疑問文として実現していること、(2) 談話において「-았/었니?」が確認されないことから、延辺地域語における下称の過去疑問形の代表的形式であるとみられる。また、用例をみると、全24例が10代、20代の談話で確認されており、若年層に

おける談話で使用されやすい語尾であることも明らかになった：

〔例 7〕 延辺地域語（20/FM）

CN5	나 挂課했다.
CNB	한 몇개 해？.
CN5	하나 했다.

（訳）CN5：俺、試験に落ちたよ。

CNB：いくつ位落ちたの？

CN5：1つ落ちたよ。

⑨ 「-매」

「-매」は、오선화, 최성학 (2014) によると、「-는/(으)ㄴ 모양이-」（～ようだ）が文法化し、間接引用としての用法を獲得したものである²⁹⁾。主に動詞、指定詞の現在連体形に結合するが、〔例 8〕にもみられるように「-라매」（4 例）、「-하매」（1 例）により出現する例も確認された。この語尾も、全 18 例中、17 例（94.4%）が、10 代、20 代の談話で確認されており、「-아/어」と同様に若年層における談話で使用されやすいという特徴を持つ：

〔例 8〕 延辺地域語（10/FM）

CN2	氷桶 무슨게라매<한숨>.
CNB(CN2)	응, 막,막 웃으매서리는 (응,응.)막 그런것 똑 본게….
CNB(CN2、CN2)	루게릭병이 무슨 장난인가구서리는 (응.) 막 그러매 막 해서는,이렇게 엄숙, 엄숙하게 물을 맞아야 되는게 아인가매서리는 (아—.)막 그러는매.
CN2	그게 요새 또 세드라.

（訳）CN2：氷のバケツの何かみたいだね<ため息>。

CNB：うん、やたら笑いながら（うん、うん）やたらそういうの、ぱっと見たのが…。

CNB：ルー・ゲーリッグ病が何かふざけるようなことなのかって（うん）、そんなことするみたいで、そうやって、こうやって真面目に水を被らなければなら
ないのではないのか（あー）、そんなことしてるみたい。

CN2：それ、最近すごかったよ。

これら延辺地域語に特徴的に現れる終止形語尾「-재」、「-아/어」、「-매」は、フォローアップ調査では「目上の相手には使用できない」との内省が示されたことから、本稿では、略待ではなく、下称の語尾として分類している。

このうち「-재」、「-아/어」は、それぞれ「-지 않-」、「-았/었-」に起源を持ち、「-개」（<-겠다）などと同様に、音韻変化を経た形態が文法化したものである³⁰⁾。また、「-매」についても「-는/(으)ㄴ 모양이-」に起源を持ち、やはり当地域で独自に文法化が進んだものである。このように延辺地

域語で確認される下称の終止形語尾には、文法化した形態が多く含まれることが1つの特徴になっている。

4.1.2. 略待

続いて、略待についてみる。これはソウル方言において圧倒的に高い使用率を示すもので、以下のような形式が確認された：

【表 10】略待の形式ごとの出現数と生起比率

		延辺地域語	ソウル方言	p値
共通	①「-지」	117 (39.0%)	114 (18.8%)	0.000 *
	②「-아/어」	73 (24.3%)	396 (65.5%)	0.000 *
	③「-(으)ㄴ가, 는가, 던가」	29 (9.7%)	10 (1.7%)	0.000 *
	④「-나」	11 (3.7%)	13 (2.1%)	0.264
	⑤「-(으)ㄴ게」	11 (3.7%)	1 (0.2%)	0.000 *
	⑥「-(으)ㄴ가, (으)ㄴ까」	7 (2.3%)	15 (2.5%)	1.000
	⑦「-네」	1 (0.3%)	28 (4.6%)	0.001 *
	⑧「-거든」	1 (0.3%)	19 (3.1%)	0.014
非共通	⑨「-지므」	50 (16.7%)		0.000 *
	⑩「-(으)ㄴ걸」		3 (0.5%)	0.544
	⑪「-구만」		2 (0.3%)	0.806
	⑫「-(으)ㄴ래」		2 (0.3%)	0.806
	⑬「-군」		1 (0.2%)	1.000
	⑭「-더만」		1 (0.2%)	1.000
合計		300 (100%)	605 (100%)	

表をみると、略待の語尾も下称と同様に、延辺地域語、ソウル方言において共通する形式と、共通しない形式に大分されることがわかる。

4.1.2.1. 共通する形式

共通する形式としては、①「-지」、②「-아/어」、③「-(으)ㄴ가, 는가, 던가」、④「-나」、⑤「-(으)ㄴ게」、⑥「-(으)ㄴ가, (으)ㄴ까」、⑦「-네」、⑧「-거든」が確認され、延辺地域語では「-지」が、ソウル方言では「-아/어」が最も高い生起比率をみせた。ここでは、延辺地域語における上位3種のほか、「-(으)ㄴ게」を取り上げる。

①「-지」／②「-아/어」

略待を代表する終止形語尾としての「-지」（確言形）、「-아/어」は、延辺地域語の基層言語である咸鏡道方言においては、存在しないと言われてきた形式である³¹⁾。ところが、本調査では、延辺地域語においても同形式が使用される例が、少なからず確認された。以下の例をみてみよう：

[例 9] 延辺地域語 (20/MM)

CNB	래일에, 오, 오늘 토요일이지?
CN6	토요일, 내리구나.
CNB	래일, 저녁에...
CN6	오~, 또 여러가지 얘기하자 그러겠지.

(訳) CNB : 明日、きよ、今日、土曜日でしょう？

CN6 : 土曜日、明日か。

CNB : 明日の夕方…。

CN6 : おー、また色々話そうって言うだろうね。

[例 10] 延辺地域語 (20/MM)

CN6	어-, 이래서 다 우린데다 병하겠다드라.
CN6	그 문제만 아이 걸리문 무슨 우리 교회는 뭐 큰 문제 없잖아? . [↑]
CNB	그 이브 뭐 할지...? .
CN6	글쎄, 그거 지금 생각 <응-, 그거 생각해야 된단말이다>{<}[I].
CNB]]<그거는...<한숨>>{>}.

(訳) CN6 : うん、そうやって、全部うちのところと一緒にするってよ。

CN6 : その問題さえ解決できたら、もう、うちの教会は、大きな問題はないじゃない？ [↑]

CNB : その、イブの日に何をするか…？

CN6 : そうだなあ、それ今考え <うんー、それ考えなきゃならないんだよ>{<}[I].

CNB :]]<それは...<ため息>>{>}.

[例 9] は「-지」が平叙形と疑問形、[例 10] は「-아/어」が疑問形として現れたものである。このうち [例 10] の「-아？」は、文脈上、非過去を表しており、4.1.1.2.でみた下称のそれとは異なるものであることがわかる。

このように、共時態の延辺地域語では、略待の「-지」や「-아/어」が平叙形のみならず、疑問形（勧誘形、命令形）としても出現し、ソウル方言とよく似た用法をみせることが確認される。このような言語事実は、一体何を意味するものなのだろうか。

筆者は、これは、1 つには、現代の延辺地域語における終止形語尾の体系が、ソウル方言の影響を強く受けていることを表すものであると考える。これまでに全永男 (2004, 2007)、尹貞姫 (2005) などでも指摘されてきたように、1992 年の中韓国交正常化以降、延辺地域と韓国との結びつきは、ますます強まっている。このような韓国との交流の増加は、延辺地域語のあり方にも大きな影響を与えており、文末形式の使用もその例外ではないのである³²⁾³³⁾。こうした変化は、延辺地域語の談話において「-(으)ㄴ게」、「-네」、「-거든」といったソウル方言に特徴的な語尾が確認されていることから窺うことができ、広範囲な影響を受けていることが確認される。なお、本調

査では、以下の〔例 11〕のように、従来、延辺地域における（友人）談話の中で記述されたことがなかった「-았/었-」（過去）と略待の「-아/어」が結合した用例も確認された：

〔例 11〕延辺地域語（20／FF）

CN4	우리 그때는 <연변사람 많아서 그러나>{<}【？.
CNB	】<개구-…>{>}.
CNB	어-.
CN4	그런 생각 아예 안 했어.
CNB	그래구 /인명/이라메는 또 선뎌데서 먼저 배우구 왔다드라.

（訳）CN4：私たち、あの時は <延辺の人が多かったからかな>{<} 【？

CNB：】<ようやくー…>{>}。

CNB：うん。

CN4：そんなこと全然考えなかったよ。

CNB：それから、/人名/とかは、また先輩のところで先に習ってきたってよ。

このように共時態としての延辺地域語は、下称の「-아/어」と、略待の「-아/어」が共存した状態にあるとあってよい。こうした形式が、いつごろから、どのような経緯で使用され始めたのかについては、今もって解明されていないが、同時代の延辺地域語は、（ソウル方言をはじめとする）異なる言語変種との接触により、終止形語尾の体系が変容しつつある段階にある、とあってよいだろう³⁴⁾。

③「-(으)ㄴ가, 는가, 던가」

延辺地域語では、疑問形の終止形語尾「-(으)ㄴ가, 는가, 던가」の中でも「-던가」の出現が、全 29 例中、16 例（69.6%）を占めており、高い生起比率を示した。これは〔例 12〕のように用言の過去形／非過去形と結合して、何かを思い出そうとする際に独り言のように使用されることが多いことと関係している。なお、ソウル方言では、このような場合、例えば、〔例 13〕にみられるように「-았/었나」（過去＋나）という形式が選択されやすい：

〔例 12〕延辺地域語（40／FF）

CNB	음, 나이 그 뭐이야 12월 생일이제?.
CN7	그래, 그렇지.
CNB	12월 28일이던가?.
CN7	음, 음, 음-, 기실은 그 다음해가 한가지제?.
CNB	야-.

（訳）CNB：うーん、年、その何だ、12 月が誕生日じゃないの？

CN7：うん、そうだよ。

CNB : 12 月 28 日だったかな？

CN7 : うーん、うーん、うーん、実はその次の年と同じじゃないの？

CNB : うーん。

[例 13] ソウル方言 (10/FF)

KN1	체크 같은 거 하지 않았어 [↑], 그냥 그냥 그런데….
KNB	지금 내 건데….
KN1	넌, 다른 애였나?.
KNB	다른 애겠지?.
KNB	기억이 하나도 안 나.

(訳) KN1 : チェックみたいなのつけてなかった [↑]、ただ、ただ、それで…。

KNB : 今の私のだけれど…。

KN1 : あんたは、他の子だったかな？

KNB : 違う子だろうね？

KNB : 全然思い出せない。

⑤ 「-(으)ㄴ게」

「-(으)ㄴ게」[(으)ㄴ게] は、用言との結合という点においては、ソウル方言と同じ特徴を持つが、延辺地域語では、このほかに「-(으)게」[(으)게] というㄴ脱落形を持つ点で違いをみせる(「하게 [하게] <하다」、 「먹으게 [머그게] <먹다」、 「노게 [노게] <놀다」など)。また、これらは、意志(約束)のみならず、[例 14] のような推量の用法も持っており、ソウル方言とは異なる意味領域を持つ：

[例 14] 延辺地域語 (10/FM)

CNB	오바마두 당했다.
CN2	오바마, 해?.
CNB	그 저스틴 비버 오바마 지목했다.
CN2	<웃음>.
CNB	근데 오바마 아이 했을게.
CN2	<웃음>.
CNB	뜬게 없드라.

(訳) CNB : オバマも(指名)されたよ。

CN2 : オバマ、したの？

CNB : あの、ジャスティン・ビーバーがオバマを指名したんだよ。

CN2 : <笑い>.

CNB : でも、オバマはしなかっただろうね。

CN2 : <笑い>.

CNB : ネットに出てなかったよ。

4.1.2.2. 共通しない形式

共通しない形式としては、延辺地域語では⑨「-지므」が、ソウル方言では⑩「-(으)ㄴ걸」、⑪「-구만」、⑫「-(으)ㄴ래」、⑬「-군」、⑭「-더만」が確認され、項目数としては、ソウル方言で多く現れるという結果になった。ここでは、延辺地域語で多く出現した「-지므」の例をみることにする：

⑨「-지므」

「-지므」は、略待の非共通項目の中でも圧倒的な出現を示した語尾である。この語尾は、語幹の種類を問わず結合することが可能で、[지무]や[지문]、[짐]により実現することもある。柴（2007）によると「-지 뭐」（～（する）さ、よ）ほどの意を表すとされているが、動詞のみならず、形容詞、指定詞、存在詞と結合し、平叙形、疑問形、命令形として出現する例も確認された。この語尾は、최화（2012）でも、延辺地域語における「반말」を代表する形式であるとされているが³⁵⁾、本調査においても、10代から40代までの幅広い年代の話者による使用が確認されており、フォローアップ調査で「目下、対等はもちろん、目上の話者にも使用が可能である」との内省が示されたため、これを「略待」に分類することにした：

〔例 15〕延辺地域語（40／FF）

CN7	내 옆에 들지만 내 품안에서는 쪽 요렇게 가다 아이들지, 뭐….
CNB	그니까 손이 적게 가지므<한숨>？
CNB	저네 아 지금 몇살이요？
CNB	일곱살…？
CN7	지금[↑]<감탄>….
CNB	음-
CN7	어디, 여섯살이지.
CNB	여섯살…<한숨>.
CN7	여섯살이지므.

（訳）CN7：私の周りで遊ぶんだけど、私のところにはこうやって来てべったりしないよ、もう。

CNB：だから、手がかからないでしょう<ため息>？

CNB：あなたの子供、今何歳なの？

CNB：7歳…？

CN7：今[↑]<感嘆>…。

CNB：うーん。

CN7：いや、6歳だよ。

CNB：6歳…<ため息>。

CN7：6歳だよ。

4.1.3. 中称

次に、中称についてみる。これは延辺地域語でのみ出現がみられたもので、以下のような形式が確認された：

【表 11】 中称の形式ごとの出現数と生起比率

	延辺地域語
①「-오/소」	81 (87.1%)
②「-히데/습데」	12 (12.9%)
合計	93 (100%)

表をみると、①「-오/소」、②「-히데/습데」という2つの形式が確認され、中でも「-오/소」の使用が多いことがわかる。ここでは、これらの形式が現れる例をみることにする。

① 「-오/소」

「-오/소」は、中称を代表する終止形語尾で、平叙形、疑問形、勧誘形、命令形において広く使用される。「-오」は母音／ㅜ語幹に、「-소」は子音語幹に結合し、このうち「-오」は、[例 16]のように指定詞「-이다」と共起した場合、同化が起こり[요]により実現することがあるほか（全 81 例中、32 例（39.5%））、[例 17]のように母音語幹用言全般との結合において[우]になることもある（全 81 例中、16 例（19.8%））³⁶⁾。김병제 (1988)によると、[우]は咸鏡南道の大部分の地域、咸鏡北道、両江道全域において確認される形であるため、基層言語の特徴を留めたものであるとみられる：

[例 16] 延辺地域語 (40/FM)

CN8	저작아 원래 화룡이란 말이요.
CNB	그렇소?.
CN8	응-, 그래 통해서....
CNB	가 지금 정부에 갔을게요, 가네 나그네....
CN8	그래?.
CN8	정부갔소?.
CNB	정부루 들어갔답데.

(訳) CN8：あの子、元々、和龍（地名）なんだよ。

CNB：そうなの？

CN8：うん、それでそのつながりで…。

CNB：あの子、今、政府に入ったはずよ、あの子の旦那…。

CN8：そう？

CN8：政府に入ったの？

CNB：政府に入ったと言っていたよ。

[例 17] 延辺地域語 (40/MM)

CN9	뽕, 오백원씩 뽕 优惠 받구 무슨 그랬다.
CNB	아, 진짜 지금 농촌 호구문 뽕개 좋소.
CNB	그거 떼오지 말아야 되우.
CN9	그래서 내 우리 아 호구를, 연변일중에 내 지금두 있단 말이다.

(訳) CN9 : 何か、500 元ずつ、もう割引してもらって、何か、そうだったんだ。

CNB : ああ、本当に今、農村の戸籍なら、とてもいいよ。

CNB : それ、移動しない方がいいよ。

CN9 : だからうちの子の戸籍を、延辺 1 中に私、今もあるんだよ。

② 「-ㄷ데/습데」

「-ㄷ데/습데」は、최명옥외 (2002) で「-읍-(対者待遇)+-더-(回想)+-이」と分析されるもので、「-ㄷ데」は母音/ㄷ語幹に、「-습데」は子音語幹に結合する³⁷⁾。この語尾は、방채암 (2008) では「-더군요」(～ていましたよ)、「-았/었어요」(～ました) ほどの意を表す過去回想の終止形語尾であるとされており、김일성종합대학출판사 (1977)『조선문화어문법규범』にも「-데」に比べて対者への丁重さを加える機能を持つとの記述がみられる。なお、実際の談話において確認された用例をみると、[例 16] (上掲) の「들어갔답데」(入ったと言っていたよ) のように、用言複合体に結合する例もみられた³⁸⁾：

[例 18] 延辺地域語 (40/FM)

CN8	아이 깨났다.
CN8	깨나서 자기, 자기칸에 갑데.
CNB	주말에는 겐 뭐하우?.
CN8	주말에는 그저 뭐 오전에는 무조건 가서 운동한단 말이요, 헬스장에 가서….

(訳) CN8 : 起きてなかった。

CN8 : 起きて、自分の、自分の部屋に行っていたよ。

CNB : 週末はゲーム、何するの？

CN8 : 週末は、ただ、まあ、朝は絶対に行って運動するんだよ、ジムに行って…。

ところで、千惠蘭 (2005) では、延辺地域語における中称³⁹⁾は、話し手の世代を問わず最も使用率の高い文末形式であるとしているが、本調査で採録した談話では、以下の表に示すように年代によって、その使用に大きなばらつきがあることが確認された：

【表 12】 中称の年代ごとの出現数

	10代	20代	40代
①「-오/소」	1		80
②「-비데/습데」		1	11
合計	1	1	91

この表をみると、10代、20代の友人談話にあつては、中称がほぼ使用されていないことがわかる。ここで、千恵蘭（2005）が報告している 1998 年 9・10 月時点（調査日基準）の延辺における中称の使用意識のデータもあわせてみてみよう：

【表 13】 千恵蘭（2005）による中称の使用意識調査

		世代						
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
聞き手	同年代友達	0.0%	17.0%	66.0%	71.0%	77.0%	91.0%	89.0%
	同年代初対面	57.1%	86.0%	76.0%	47.0%	48.0%	46.0%	25.0%
	20代知人	93.9%	55.0%	40.0%	33.0%	37.0%	41.0%	25.0%

(p.63 (抜粋))

同調査は、10代から70代の延辺地域語話者を対象に、聞き手（対話者）による文末形式の使用意識を問うたもので、表中の百分率は、中称の出現比率を表している。これをみると、1998年当時、40代であった被験者は、71%が同年代の友人に対する発話形式として、中称を選択していたことがわかる。調査の方法が異なるため、一概には比較ができないが、本調査（2014年）における40代の談話参与者6名のうち、5名がこれを比較的多く使用していたことを考えると、中年層における同等級の使用は、とりあえず命脈を保っているということができそうである。一方で、20代については、1998年当時は、17%の被験者が中称を選択していたことがわかる。それに対し、本調査での使用は、わずか1例のみに留まった。これは、当地域の若年層の友人談話における中称の使用が急速に縮小していることを示すものである。このような変化は、先にみたソウル方言からの影響による略待の使用の増加と無関係ではないとみられるが、友人談話におけるこの等級が、一定の年齢以上で使用されやすいという特徴もあわせて考えたとき、さらなる通時的考察が必要だと思われる。

4.1.4. 待遇法体系と完全文の出現

4.1.1.から 4.1.3.では、延辺地域語、ソウル方言の友人談話に現れる完全文について、終止形語尾の等級ごとに概観してきた。4.1.4.では、これらを待遇法体系の中でより巨視的に捉え、その出現要因を分析することにする。具体的には、延辺地域語、ソウル方言で出現が多かった終止形語尾を上位8

種ずつ取り上げ、それらの文法的特徴を平叙形、疑問形、命令形、勧誘形における出現可否という観点から整理する：

【表 14】出現数の多い終止形語尾

延辺地域語

形式	出現数(比率)	等級	平叙形	疑問形	命令形	勧誘形
1. 「-다」	205 (22.1%)	下称	○			
2. 「-재」	139 (15.0%)	下称		○		
3. 「-지」	117 (12.6%)	略待	○	○	○	○
4. 「-오/소」	81 (8.7%)	中称	○	○	○	○
5. 「-냐, 니」	73 (7.9%)	下称		○		
6. 「-아/어」	73 (7.9%)	略待	○	○	○	○
7. 「-지므」	50 (5.4%)	略待	○	○	○	
8. 「-더라」	35 (3.8%)	下称	○			

ソウル方言

形式	出現数(比率)	等級	平叙形	疑問形	命令形	勧誘形
1. 「-아/어」	396 (55.7%)	略待	○	○	○	○
2. 「-지」	114 (16.0%)	略待	○	○	○	○
3. 「-다」	50 (7.0%)	下称	○			
4. 「-네」	28 (3.9%)	略待	○			
5. 「-냐, 니」	26 (3.7%)	下称		○		
6. 「-거든」	19 (2.7%)	略待	○			
7. 「-(으)니까」	15 (2.1%)	略待		○		
8. 「-나」	13 (1.8%)	略待		○		

○：本調査で出現が確認されたもの

※生起比率は、完全文（延辺地域語：927 発話、ソウル方言：711 発話）に対するもの。

表をみると、延辺地域語では下称の、ソウル方言では略待の終止形語尾が出現数でも、類型数でも多いことが確認される。これは、延辺地域語では「-다」や「-재」、「-냐, 니」の、ソウル方言では「-아/어」の出現が多いこととの関わりが深い。なお、それぞれの談話において特に出現が多い形式は、延辺地域語では「-다」、ソウル方言では「-아/어」であるが、このうちソウル方言における「-아/어」は、延辺地域語の「-다」に比べ、約2倍の出現数を示していることに注目したい。このような出現の差が生じるのは、ソウル方言における「-아/어」は、平叙形、疑問形、命令形、勧誘形において広く用いられる形式であるのに対し、延辺地域語の「-다」は平叙形でのみ使用されており、疑問形や命令形、勧誘形においては、異なる形式が使用されることによる⁴⁰⁾。すなわち、延辺地域語における終止形語尾は、ソウル方言のそれに比べて、その文法的役割が細分化されており、個別の語尾の使用域が相対的に狭いため、各項目の出現実数も少なくなるわけである。ただし、本調査では、延辺地域語においても、ソウル方言に特徴的な略待の使用が一定数みられた。このことは、同地域の話者が、より使用域の広い語尾の使用を

選好していることを示唆しており、今後の変化が注目される 41)。

4.2. 中途終了発話文

続いて、中途終了発話文についてみる。これは、待遇法としては略待に属するものであるが、ここではその形式という観点から分析を行なう。高木 (2013b) の分類に基づき、接続形と接続形以外に大分したうえで、各形式の出現様相を整理すると、以下のようになる 42) :

【表 15】 中途終了発話文の形式ごとの出現数と生起比率

		延辺地域語	ソウル方言	p 値
接 続 形	①「-(으)ㄴ/는/던데」	65 (11.6%)	61 (11.1%)	0.877
	②「-고」	50 (8.9%)	46 (8.4%)	0.834
	③「-(으)면」	18 (3.2%)	5 (0.9%)	0.013
	④「-(으)니까」	13 (2.3%)	25 (4.6%)	0.060
	⑤「-아/어서」	12 (2.1%)	11 (2.0%)	1.000
	⑥「-(으)ㄴ/는/던/(으)르지」	10 (1.8%)	3 (0.5%)	0.102
	⑦その他の接続形	13 (2.3%)	19 (3.5%)	0.337
接 続 形 以 外	⑧名詞	167 (29.8%)	192 (35.0%)	0.073
	⑨名詞＋助詞	108 (19.3%)	77 (14.1%)	0.024
	⑩副詞	50 (8.9%)	40 (7.3%)	0.377
	⑪接続詞	19 (3.4%)	16 (2.9%)	0.781
	⑫間投詞	17 (3.0%)	22 (4.0%)	0.471
	⑬引用形とその諸形式	13 (2.3%)	16 (2.9%)	0.663
	⑭「-(으)ㄴ/는/던」(連体形)	1 (0.2%)	4 (0.7%)	0.357
⑮非境界		4 (0.7%)	11 (2.0%)	0.109
合計		560 (100%)	548 (100%)	

表をみると、接続形、接続形以外という分類では、延辺地域語とソウル方言において、大きな差は確認されないことがわかる。ただし、各項目内においては、延辺地域語において特徴的な形式がいくつか確認された。ここでは、それらの出現様相をみることにする。

まず、接続形が文末に現れた例をみてみよう :

[例 19] 延辺地域語 (40/MM)

CNB	언어학은 진짜 아무것도 모르우.
CNB	아, 나는 공부 아이해 같구, 언어학은 싫어 같구서리는...
CN9	니 논문 무슨기야?.

(訳) CNB : 言語学は、本当に何も知らないよ。

CNB : あー、俺は勉強してないから、言語学は嫌いで…。

CN9 : お前の論文は、どんな分野なの？

[例 20] 延辺地域語 (20/FF)

CNB	그래문 간부랑 못하지야-
CN4	어--.
CNB	그래두 제 앞의 거는 적어두 해야지.
CNB	그래, 마시지 못하문....
CN4	뭐, 기다리라는 말...〈웃음〉.

(訳) CNB : その調子だと、役人とか、なれないでしょう。

CN4 : うーん。

CNB : でも自分の前の(酒)は、少なくとも飲まなきゃ。

CNB : そう、飲めなかったら…。

CN4 : 何か、待っててって...〈笑い〉。

[例 21] 延辺地域語 (20/FF)

CN4	무슨 기다리라는거는....
CNB	내 옆에 아, 저기 아 영 바빠하니까나....
CN4	아-, 아아-
CNB	내 이렇게, /인명/ 그 옆에 앉았으니까 /인명/는 아이되자이.

(訳) CN4 : 何か待ってて、って言うのは一。

CNB : 私の隣の子、あの子、とても忙しそうだから…。

CN4 : あー、ああー。

CNB : 私、こうやって/人名/のその隣に座ったから、/人名/はダメじゃない。

[例 19] から [例 21] は、基層言語の特徴を留めた接続形が文末に現れた例である。

[例 19] は、並列や先行動作を表す接続形「-구서리(는)」(～て)の例である。これは、ソウル方言の「-고」にあたる形で、咸鏡北道、両江道方言において一般的な形態である。전학식 (1996)によれば、同形式は、延吉市郊外(琿春市)においては、「-구서」、「-구서」といった形でも実現することがあるというが、本調査においてはいずれも確認されなかった⁴³⁾。

[例 20] は、条件を表す接続形「-문」(～ば)の例である。これは、ソウル方言の「-(으)면」にあたる形で、やはり咸鏡北道、両江道方言において一般的な形態である。김병제 (1988)によると、基層言語では、「-문」は、ほかにも「-무」や「-므」といった形態を持つというが、本調査においては、「-문」以外は確認されなかった。

[例 21] は、理由を表す接続形「-니까나」(～から)の例である。これは、ソウル方言の「-(으)니까」にあたる形で、咸鏡北道全域で使用されるものである。本調査では、「-니까나」の用例のみが確認されたが、全永男 (2004)における延辺地域語の談話資料では、「해 달라까나」、「반복하니까나」などの用例もあげられている⁴⁴⁾。

なお、이주형 (2005)では、咸鏡道方言における接続形としてこのほか

にも「-메로」(ソウル方言: -며 (〜し))、「-아/어사」(ソウル方言: -아/어야 (〜してこそ))などをあげている。本調査では、これらの出現は確認されなかったが、今後は、いかなる接続形が、文中、文末に現れるのかについてさらなる分析を行なっていく必要があると考える。

次に、接続形以外が文末に現れた例をみてみよう：

[例 22] 延辺地域語 (10/FF)

CN1	전번날 /인명/이하구 잤단말, 그 자습실, 방학에, 방학에….
CNB	음.
CN1	사람 한-나두 없지므.
CN1	그게 그 가네 교실에 이 등이 아이 켜진단 말….
CNB	음-.

(訳) CN1：この間、/人名/と行ったのよ、あの自習室、休みに、休みに…。

CNB：うん。

CN1：1人もいなかったよ。

CN1：それが、あの、あの子たちの教室にこの電気がつかないのよ…。

CNB：うーん。

[例 23] 延辺地域語 (40/FF)

CN7	20프로의 재산을, 정말 80프로의 재산을 20프로의 사람 가지고 있고 그 나머지 20프로의 재산을 이 80프로의 사람이 나눠 가지구 있다재. [↓]
CNB	음-.
CN7	젠데 그것이가….
CNB	그러니까 대부분 사람으는 다 비슷하지므.

(訳) CN7：20%の財産を本当に 80%の財産を 20%の人が持っていて、その残りの 20%の財産をこの 80%の人が分けて持っているって言うのよ。

CNB：うーん。

CN7：でも、それがー…。

CNB：だから、ほとんどの人は、みんな同じだよ。

[例 24] 延辺地域語 (20/FF)

CN4	아-, 우리는, 모르겠다.
CN4	우리 그 때는 <연변사람 많아서 그러나><【?.
CNB	】<개구-…><{>.
CNB	어-.

(訳) CN4：あー、私たちは、わからない。

CN4：私たち、あの時は <延辺の人が多かったからかな><{ 【?.

CNB：】<ようやくー…><{>.

CNB：うん。

[例 22] は、文末に「-단 말」⁴⁵⁾が現れた例で、【表 15】の分類では、

⑧名詞に該当する。「-단 말이야」(<-단 말이다)のような形は、ソウル方言においても存在するが、本調査では、延辺地域語においては、このほかに「-다 말」や、「-다 말이」(이は主格助詞)のような形も実現しうることが確認された⁴⁶⁾。

【例 23】は、助詞「-이가」が現れた例で、【表 15】の分類では、⑨名詞＋助詞に該当する。これは、咸鏡道方言において広く使われる主格助詞で、子音体言に結合する形態である。전학식(1996)では、咸鏡道方言の主格助詞には、このほかにも/ㅏ/、/ㅓ/、/ㅗ/で終わる母音体言に結合する「-이」という形態があるとしており、延辺地域語においてもその使用が認められるとしている。

【例 24】は、「ようやく」という意の⑩副詞の方言形「개구」が現れた例である。

以上、本章では、完全文、中途終了発話文の出現様相を実際の談話データをもとに分析した。次章では、これらをまとめ、本稿全体の結論を述べることにする。

5. 結論

本稿では、延辺地域語の友人談話の発話形式について、ソウル方言との比較から分析を行なった。分析の結果、完全文の待遇法は、延辺地域語では3等級、ソウル方言では2等級に分布していること、中途終了発話文は、延辺地域語においては、方言形による出現が認められることなどが確認された。その中でも完全文における各等級の関係を整理すると、以下のようになる：

【表 16】友人談話（相関的場面）における完全文の待遇法等級の関係

	延辺地域語	ソウル方言
下称	基本等級 【非格式体】	※有標な語尾
略待	準基本等級 【非格式体】	基本等級 【非格式体】
中称	※主に40代で使用	※使用なし

まず、友人談話（相関的場面）においては、延辺地域語では下称が、ソウル方言では略待がそれぞれ「基本等級」として設定されていることが確認された。これは、略待のみならず、下称までもが親密度を表す「非格式体」として機能していることを示すもので、延辺地域語では「-다」や「-재」、「-냐, ㄴ」, ソウル方言では「-아/어」の出現が特徴的にみられた。

一方で、延辺地域語においても、ソウル方言の影響を受け、略待の使用が

みられることが明らかになった。これはその生起比率からいえば、「準基本等級」とでも呼びうるもので、共時態としての延辺地域語における変化の一側面を示すものである。さらにソウル方言における下称（-다）は、その使用が限定的であり、方略として使用することにより、一定の発話効果を狙う有標な語尾であることも確認された。

また、このほかにも延辺地域語の 40 代の談話においては、中称の出現が確認される一方で、10 代、20 代の談話においては、その使用がほとんど確認されないという事実も明らかになった。

以上でみてきたように、延辺地域語の談話における待遇法体系は、単に対話者との関係や、待遇の度合いという枠を超えて、他変種からの影響や使用域の違いといった複雑な要因によって規定されるものである。こうした事実は、これまで談話データとしては、そう多く記述されてこなかったものであり、延辺地域語に関する新たな姿を記したものであったといえる。ただし、本稿でみた談話は、年齢層としては 10 代、20 代、40 代に限定されていたばかりか、場面も友人談話のみを扱ったため、延辺地域語の全体像を把握するにはまだほど遠い。今後は調査範囲を拡大しながら、韓国語や中国朝鮮語、中国語といった多変種との接触の影響、談話における形態以外の要素（発話機能や談話展開など）、スピーチレベルシフトや待遇法の分類に関するさらなる精密な分析を行なっていきたい。

【謝辞】

本論文の執筆にあたり、査読者の先生方から貴重なコメントをいただきました。ここに記して感謝申し上げます。また、延辺大学 朝鮮韓国学学院의 장성일教授、延辺人民出版社의 홍영先生、문옥란先生、東京大学 博士課程의 오춘희氏には、母語話者の立場から多くのことをご教示いただきました。さらに東京大学 大学院の福井玲先生には、大学院在籍時代から常にご助言をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

《註》

- 1) 『中国 2000 年人口普查资料』（第 5 回人口センサス）における朝鮮族の総人口は、約 192 万であった。この 10 年間で（中国国内では）約 10 万人の人口減少が進んだことがわかる。
- 2) 中国朝鮮語について、千惠蘭（2005）では、「中国において学校教育などで教えられている標準朝鮮語」（p.57）と定義している。
- 3) このほかにも六鎮方言や忠清道方言、全羅道方言を基層言語とする話者が存在する。なお、宮下（2007）では、심희섭, 리윤규（1990）を引きながら、具体的な方言分布は、上記より複雑であり、各方言区画の中に異なる方言話者が居住する「島」ができていること、そうした「島」は、住民数数千人、戸数数百戸の「村」単位においても存在することを述べている。

- 4) 延辺地域語とは、吉林省延辺朝鮮族自治州の中心都市である延吉市における言語をさす。なお、河須崎（2013）には、「中国に住む朝鮮族話者の（中略）差異が、その地域の「方言」と呼べるほど地域ごとに固定されたものかどうか疑わしい」（p.8）との記述があるが、延吉市における言語もまた、基層言語の多様性や、言語接触などにより「延吉方言」と呼べるほど明確な区分が可能な変種ではない。そこで本稿では、あくまで延吉市において使用されている共時態としての言語を「延辺地域語」と称することにする。また、本稿では、言語名として基本的に「朝鮮語」との名称を用いるが、特に韓国において使用される言語の総体に言及する際には、「韓国語」という語を用いて、区別することにする。
- 5) 本稿における分析対象は、話しことばとしての延辺地域語とソウル方言であるが、延辺地域語における待遇法研究が圧倒的に不足していることに鑑みて、ここでは文文法（sentence grammar）としての中国朝鮮語、韓国語の研究を参照することにする。
- 6) 최윤갑（1994）でも述べられているように、『조선어분법』における文法体系は、形態論の範疇において品詞（품사）と語尾、接尾辞類（토）を区別して扱っている点や、ヴォイス形態素（상형태）を語尾、接尾辞類（토）として扱っている点など、北朝鮮の文法理論の影響を大きく受けたものである。また、「계칭」（階称）は、中国における朝鮮語学において使用される術語で、『조선어문법』では、「話し手と聞き手の社会的関係を表すもの」（p.216）と説明されている。これらは、韓国では「존비법」（고영근（1974））、「정어법」（李基文（1975））、「존대법」（서정수（1984））、「높임법」（남기심・고영근（1995））、北朝鮮では「말차림」といった枠組みで扱われる。本稿では、日本の朝鮮語学において一般的に使用されている「待遇法」という術語を採用することにする。
- 7) 「청자대우」を文字通り訳せば、「聴者待遇」となる。ここでは、日本の朝鮮語学で一般に使用される「対者待遇」との訳をあてておく。なお、【表1】は、【表2】との比較における便宜を図るために、行の配列に若干の改変を加えている。
- 8) 서정수（1984）によると、「격식체」（格式体）は、①公的場面、②上下関係のある間柄、③親しくない間柄で使用され、「비격식체」（非格式体）は、①私的場面、②対等な間柄、③親しく気軽な間柄で使用されるという。
- 9) 韓国の国語学においては、待遇法の等級設定を5等級とするもの（허용（1968）、서상준（1996））、6等級とするもの（김민수, 이기문（1968）、서정수（1984）、이익섭외（1997））など諸説が提出されてきている。一方で、中国における朝鮮語学においては、上掲書のほか、중국조선어실태조사보고 집필조（1985, 1993）の「높임－가름－낮춤」、전학석（1996, 1998）の「존대－대등－하대」、박정래（2003）「예예체－야야체－응응체」など、名称こそ異なるものの3等級分類を基本とするものが多い（ただし、中国朝鮮語における待遇法を扱ったものの中でも、연변대학 조선어계 조선어교연조의（1972）は、韓国や北朝鮮における研究の影響を受けているとみられ、【존대】（하십시오系列、해요系列）－【대등】（하오系列、하계系列）－【하대】（해系列、해라系列）」という6等級分類を採用している）。
- 10) 「-ㄴ가, ㄴ까」のうち、左は中国朝鮮語における表記。なお、【表2】には「-ㄴ까」の位置が示されていないが、서정수（1984:72）には同上の記述がある。

- 11) ここでいう「반말」は、「해체」と同義である。이익섭의 (1997) でも述べられているように、そもそも「반말」という名称自体は、活用形に由来するものではなく、「은말」(完全な言葉)に対する「반말에 안 되는 말」(不完全な言葉)という意味である。これはかつての반말が、社会階級が低い人々に明確な等級を示さず、曖昧な態度で話すために使用されたことに由来している。なお、日常の言語使用にあっては、「반말」という言葉は、「해체」のみならず「해라체」までを含めたものとして使用されることも多い。
- 12) 반말の待遇法上における位置に関する問題については、김향숙 (2014) に詳しい。同論文では、반말が非公式的な日常会話で多く使用され、細分化された待遇レベルを明示しない機能を持つとの理由から、【表 3】の分類では(3)の見方が妥当であるという立場を示している。なお、同論文は、中国において発行された学術誌に掲載されたものであるが、実際のところ、その多くは韓国語を前提にして論が展開したものである。
- 13) 허웅 (1968) では、対者尊待法の分類項目に対して、個別の名称を使用せず、具体的な活用形のみを提示している。また、반말については、「尊待とみるのであれば」としたうえで、②「가오」と③「가네」の間に設定するのが妥当であると述べている。
- 14) 고광모 (2001) も반말の領域は、해라체と하계体の領域を合わせたより広く、해라체、하계体ともに使用できない相手にも使用できる、との理由から同様の主張をしている。なお、한길 (1986, 2002) では、반말は、兄や姉、両親や叔父や叔母といった親族にも使用されうることから、「두루낮춤」ではなく、「안 높임」との名称を採用している。
- 15) ただし、「-다」が相関的場面で使用されることや、「-어」が単独的場面で使用されることもある。김병진 (2014) では、このような場合は、「 수사적 효과」(修辭的効果)を持つとしており、例えば、「-다」が修辭的効果を持つ場合には、話者自身の立場、態度、認識、判断などを表す場合があるとしている。
- 16) 「パンマル」、「ため口」は、いずれも長嶺 (2008) における用語。
- 17) 柴 (2007) では、ある語彙、文法形式がいかなる方言に由来しているかを、四邑方言、六鎮方言、咸鏡道方言、平安道方言、平壤文化語、韓国語などの分類により分析している。なお、聞き取り調査のみならず、質問紙調査が行なわれる場合、「話しことば」と「書きことば」の差異にも留意しておく必要があるだろう。權在一 (2014) では、延辺地域語と同様に北朝鮮、咸鏡道方言を基層言語とする中央アジアの高麗人の言語(現地では고려말と称される)について分析しているが、これによると、同地域の言語は、主格助詞、目的格助詞、冠形格助詞、比較の副詞格助詞、上称の叙述形語尾などにおいて、「話しことば」と「書きことば」が異なる語形を持つという。
- 18) 「完全文」という名称は、元々、日本語学において白川 (2009) などが「言いさし文」に対する発話形式として定めたものである。なお、本定義中の「断定形」や「確言形」、「詠嘆形」、「確認形」、「意思形」といった名称は、菅野 (1981, 2007)、菅野他 (1988) による。
- 19) 「中称」、「下称」という名称は河野 (1955) に、「略待上称」、「略待」という名称は梅田 (1972) によった。なお、延辺地域語について、최화 (2012) には「해」や「하계」がほぼ存在しないとの記述が、전학석 (1996) には「해요」や「하계」がほとんど存在し

ないとの記述がみられる。

20) 고영근 (1974) で「요통합 가능형」(요統合可能形)と説明されるものである。

21) 하계체에含まれる「-는가」類の語尾については、고광모 (2001) を参照。

22) 以下の表では、 $p<0.01$ の項目に※を付す。

23) 中朝バイリンガルの言語の切り替えについては、村岡 (2010) を参照。同論文における分析結果をふまえると、本調査の場合、延辺地域語を解する親しい友人同士の談話であるため、漢語へのコードスイッチング (code-switching) が現れる可能性は、それほど高くないといえるだろう。なお、フィラーが漢語により現れた例は確認されなかった。

24) 略待上称 (해요체) については、冗談めかした表現として、意図的に丁寧な表現を使用したとみられる例が確認された。ただし、このような用例は、生起比率が高くないことから、本稿では分析の対象から除外することにする。

25) 3.2.で述べたとおり、本稿では、談話の文字化にあたって、宇佐美 (2007) における「基本的な文字化の原則」を採用しているが、以降で具体的な用例を提示する際には、便宜的にその中から発話者と発話内容に関わる部分のみを抽出し、当該項目で注目する発話文全体を網掛け、文末形式をゴシック・ボールドにして示すことにする。なお、提示にあたっては、【表 5】における発話者の属性と、日本語訳もともに示す (日本語訳は原文の理解を助けるためのものとして付したもので、大幅な意識はしていない)。

26) 【例 3】のようなソウル方言の「-다」を野間 (2012) では、「法 (mood) 形式としての〈한다 hanta 形〉」呼んでおり、上昇イントネーションを伴うのが普通であるとしている。

27) こうした音韻的特徴の例として、김병제 (1965) では、아니 [아이] (いや)、노니 [노이] (遊ぶので) などを、전학석 (1996) では、그냥 [그양] (ただ)、청년 [청연] (青年) などをあげている。

28) こうした点においては、韓国語の「-잖아<-지 않아」(～じゃない) も類似した特徴を有する。

29) 오선화, 최성학 (2014) では、-는/(으)ㄴ 모양이->-는/(으)ㄴ 모양->-는/(으)ㄴ 매->-는/(으)ㄴ 매という過程を経て文法化が進んだとしている。

30) 최화 (2012) でも、「-제」の意味上の起源を「-잖-」に求めている。

31) 咸鏡道方言において同形式が存在しないことは、김상원 (1996) を参照。なお、「-지」(口蓋音を持たない地域では [디]) という語尾自体は、待遇法等級は異なるものの、ソウル方言のみならず、平壤方言、咸鏡道方言においても広く使用されている (과학백과사전종합출판사 (1979)、황대화 (1986)、김병제 (1988))。ただし、延辺地域語における略待としての「-지」については、방채암 (2008:20) に (若年層における) 使用の報告がされたことがない、との記述がある。

32) 박정래 외 (2012) によると、吉林省在住の朝鮮族で韓国のテレビ放送を 1 日 1～2 時間程度、視聴している人の割合は 45.9%で、全体の約半数がこれに接しているという。また、筆者が延吉に滞在した 2014 年 8、9 月時点、延辺市から発信する延辺电视台 (연변텔레비죤방송) では、朝鮮語放送を行なっていたが、これにおける言語も限りなくソウル

方言を模倣したものであった。このほかにも延吉朝陽川空港からは、仁川空港に毎日数便、直行便が就航している。このような人的往来まで含めると、延辺地域語がソウル方言の影響を受ける可能性はますます高くなるといえるだろう。なお、本調査における被験者は、外住歴のない者に限定しているが、談話において「땡땡이 치다」(サボる)、「개콘」(〈개그콘서트〉: ギャグコンサート(韓国の人気番組名))といった韓国語や、「와이파이」(Wi-Fi)、「유튜브」(You Tube)、「페이스북」(Face book)といった外来語の使用が確認されたほか、フォローアップ調査でも「(韓国滞在歴の長い) 親が韓国語の影響を受けた話し方をすることがある」(10代男性/女性)といった声が聞かれた。

33) なお、従来の研究においては、咸鏡道方言「-지미」には、ㄷ脱落形としての「-지」が存在することが報告されているが、本調査で確認された「-지」は、これとは異なるものである。それは、基底形である「-지미」が本談話において1例も確認されていないこと、「-지미」が本来「-히데/습데」などと同様に대응に分類される語尾である(전혁석(1996))ことによる。

34) 本稿では、延辺地域語における「-지」や「-아/어」といった形式の使用について、(1) 同形式がソウル方言に特徴的な形式であること、(2) 延辺地域語における他変種との接触の中で、ソウル方言との接触が特に増加していること、(3) フォローアップ調査における話者の内省が得られたこと、をふまえ、ソウル方言からの影響についてのみ述べたが、これには、通時的考察を含めた、さらなる分析が必要であると考え(過去における延辺地域語の談話資料が限定されているため、現代に至る変化の過程を解明することは、困難を伴うが、当該形式がいつ頃から使用され始めたかについては、言語意識調査を実施するなどの方法で一部、解明が可能であると考え)。なお、「-지」は、平壤方言、咸鏡道方言において、「-아/어」は、平壤方言においても(少なくとも形式としては)存在する語尾であるため、ソウル方言とは別に、分析地域における使用に影響を与えている(た)可能性がある。さらには、中国朝鮮語の多変種からの影響も無視できないだろう。こうした点については、今後、さらなる分析を要する。

35) 「반말」は、최화(2012)における術語による。

36) 『조선어문법』によると、「-이요」は「-이오」に比べ、親近感を表す表現である。また、本調査においては、「-소」が[수]で実現する例は、確認されなかった。なお、本稿では分析対象としていないが、千惠蘭(2005)や김순희(2014)では、延辺地域語における「-오/소」は、上下関係のある対話者にも使用されることを報告している。このことは、すなわち、この終止形語尾が対話者との関係という点からみた場合には、単純に대응に属するものではないことを意味する。

37) 최명옥외(2002)において基底形「-습데」が媒介母音「으」を持つのは、用言にこの語尾が結合する際、語幹末母音がやや長母音化するためであると考えられる。ただし、この「으」は、語幹末母音に順行同化するため、「하얏데<하-+-습데」のような表記を認めることになる。この母音を1音節とみるかどうかは、研究者によっても意見が分かるところである。なお、上記分析に対して、이기갑(1997)では、「-습데」を「-습데다」のㄷ脱落形であるとみている(本文中でも述べたように「-습데」は、「-히데」の異形態)。

38) 김순희 (2014) では、「-히 데/습 데」は「-다」にも結合しうる、との記述があるが、「-답 데」が「무슨 말루는」(ある人の話では) と共起することや、指定詞との結合において「-랍 데」(2例) が実現することから、より正確には「用言複合体」に結合するとみるのが妥当である。

39) 千惠蘭 (2005) における術語は、「하오体」。

40) ソウル方言の「-아/어」のように、平叙形、疑問形、命令形、勧誘形として広く用いられる語尾を権在一 (2012) では、「汎用語尾」(범용어미) と呼んでいる。なお、同じく汎用語尾であるにも関わらず、ソウル方言において「-아/어」の出現が「-지」より多いのは、平 (2009)、権在一 (2012) も指摘するように「-아/어」がより中立的、かつ包括的であるためである(노마히 데키(2009)、野間 (2012) においても非敬意体における基本的文体は、「해/해?」であるとの記述がある)。ただし、延辺地域語においては、両者の出現が逆転している。この点についてはさらなる調査、分析を要す。

41) 同じく汎用性を持つ終止形語尾であるにも関わらず、延辺地域語で「-오/소」の出現が相対的に少ないのは、この語尾がそもそも「대등」に属するものであるからである。対者待遇としての「-오/소」の使用様相については、呉春姫 (2009) を参照。

42) ソウル方言の中途終了発話文に関する詳細な分析は、高木 (2012, 2013a, 2014, 2015a) も参照されたい。なお、【表 15】では、延辺地域語における接続形の方言形は、ソウル方言の形式に代表させて項目化している。この表中の⑮「非境界」は、形態論的、統語論的境界で終わらない発話をさす。

43) 「-구서」について、전학석 (1996) では、次のような例をあげている。「알구서보니 동창생입 데」(p.145、알고 보니 동창생이더군) なお、同論文では「-구서리」における「-서리」のような要素を、「-스리」や「-시리」、後にみる「-말이」などとともに「군더더기」(無駄なもの) と呼んでいる。

44) 査読者の先生から「-구서리(는)」や「-문」は、韓国の方方言形においても現れる形式であること、「-까나」も「-ㄷ까」が「-ㄷ까나」の形で現れることをご指摘いただいた。しかし、これらは元来、ソウル方言形に特有な形式ではないため、本稿では十分な分析が行なえなかった。延辺地域語における同形式との関係については、稿を改めることにしたい。

45) 見やすさの便宜を図るため、連体形と「말」の間は、分かち書きして示すことにする。

46) 전학석 (1996) では、延辺地域語では、文中や文末に「-말이」が現れることがあるとして、次のような例をあげている。「내 가서 보이까말이 그때까지두 잔단말이」(p.149、내가 가서 보니까 그때까지도 자고 있었다)

《参考文献》

1. 日本語で書かれたもの(筆者の五十音順)

- 尹貞姫(2005)「現代中国朝鮮族における言語問題と学校選択：延辺地域の言語使用に関する調査・分析を手がかりとして」『ことばの科学』18 名古屋大学言語文化研究会
宇佐美まゆみ(2007)「改訂版：基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for

- Japanese : BTSJ)『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』平成 15-18 年度 科学研究費補助金 基盤研究 B(2)研究成果報告書 東京外国語大学
- 梅田博之(1972)「現代朝鮮語の敬語」『アジア・アフリカ文法研究』共同研究報告書 1 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 梅田博之(1993)「延辺朝鮮語の音韻」『言語文化接触に関する研究』6 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 河須崎英之(2013)「黒龍江省鉄力出身朝鮮語話者のアクセント」『朝鮮語研究』5 朝鮮語研究会(ひつじ書房刊)
- 菅野裕臣(1981)『朝鮮語の入門』白水社
- 菅野裕臣(1982)「中国の朝鮮族とその言語」『朝鮮研究』219 日本朝鮮研究所
- 菅野裕臣著、浜ノ上幸、権容環改訂(2007)『朝鮮語の入門 改訂版』白水社
- 菅野裕臣、早川嘉春他(1988)『コスモス朝和辞典』白水社
- 金珍娥(2004a)「韓国語と日本語の turn の展開から見たあいづち発話」『朝鮮学報』191 朝鮮学会
- 金珍娥(2004b)「韓国語と日本語の文、発話単位, turn——談話分析のための文字化システムによせて——」『朝鮮語研究 2』くろしお出版
- 金珍娥(2010)「〈非述語文〉の現れ方と discourse syntax——日本語と韓国語の談話から」『朝鮮学報』217 朝鮮学会
- 金珍娥(2013)『談話論と文法論——日本語と韓国語を照らす』くろしお出版
- 権在一著、辻野裕紀訳(2012)「韓国語教育と話しことばの文法」『韓国語教育論講座 第 2 巻』(野間秀樹編著) くろしお出版
- 権在一(2014)「中央アジア高麗語の話しことばと書きことば」第 65 回朝鮮学会大会 公開講演 配布資料
- 河野六郎(1955)「朝鮮語」服部四郎・市河三喜編『世界言語概説』下巻 研究社辞書部
- 呉春姫(2009)「中国朝鮮語延吉方言の敬語」『日本言語学会 第 138 回大会 予稿集』日本言語学会
- 柴公也(2007)「中国延吉市の朝鮮族学生の朝鮮語——語と対照した語彙的・文法的特徴について」『海外事情研究』35-1 熊本学園大学付属海外事情研究所
- 白川博之(2009)『「言いさし文」の研究』くろしお出版
- 千恵蘭(2005)「中国延辺朝鮮語の聞き手待遇について——「하오 hao 体」を中心に——」『社会言語科学』8-1 社会言語科学会
- 全永男(2004)「中国延辺朝鮮族方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』6 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
- 全永男(2007)「対韓国人談話場面における延辺朝鮮族の言語行動」『社会言語科学』9-2 社会言語科学会
- 平香織(2009)「文末に見る話し手の心的態度の違い——韓国語の終結語尾(半言)と日本語の終助詞を対象として——」東北大学言語認知総合科学 COE 論文集刊行委員会編『言

語・脳・認知の科学と外国語習得』ひつじ書房

高木丈也(2012)「日本語と韓国語の談話におけるいわゆる『中途終了発話文』の出現とその機能」『社会言語科学』15・1 社会言語科学会

高木丈也(2013a)「日本語と韓国語の自然談話に現れる「くり返し発話」」『待遇コミュニケーション研究』10 待遇コミュニケーション学会

高木丈也(2013b)「日本語と朝鮮語の自然談話における「情報要求」を表す「中途終了発話文」」『朝鮮語研究』5 朝鮮語研究会(ひつじ書房刊)

高木丈也(2014)「日本語と韓国語の談話における発話文生成メカニズム——「質問」を表す「中途終了発話文」を中心に——」『待遇コミュニケーション研究』11 待遇コミュニケーション学会

高木丈也(2015a)「日本語話者と韓国語話者の「質問」発話生成に対する意識——談話データとの比較から——」『待遇コミュニケーション』12 待遇コミュニケーション学会

高木丈也(2015b)「日本語と朝鮮語の談話における発話連鎖—「質問」と「応答」の連鎖を中心に—」『朝鮮学報』第235輯 朝鮮学会

長嶺聖子(2008)「韓国語の「パンマル」と日本語の「ため口」の違いに関する一考察——待遇表現の指導方法と関連して——」『留学生教育：琉球大学留学生センター紀要』5 沖縄琉球大学留学生センター

野間秀樹(2012)「待遇表現と待遇法を考えるために」『韓国語教育論講座 第2巻』(野間秀樹編著) くろしお出版

福井玲(1999)「アジア各地の朝鮮語の現状」『月刊言語』28・9 大修館書店

宮下尚子(2007)『言語接触と中国朝鮮語の成立』九州大学出版会

村岡英裕(2010)「接触場面における習慣化された言語管理はどのように記述されるべきか：類型論的アプローチについて」『千葉大学人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書』228 千葉大学大学院人文社会科学研究科

李基文著、藤本幸夫訳(1975)『韓国語の歴史』大修館書店

2. 朝鮮語／韓国語で書かれたもの(筆者의가나다順)

고광모(2001)「반말체의 등급과 반말체 어미의 발달에 대하여」『언어학』30 한국언어학회

고영근(1974)「현대국어의 존비법에 관한 연구」『어학연구』10・2 서울대학교 어학연구소

과학백과사전종합출판사(1979)『조선문화어문법』과학백과사전종합출판사

곽충구, 박진혁, 소신애(2008)『중국 이주 한민족의 언어와 생활:길림성 회통봉』대학사

김민수, 이기문(1968:2009)『표준 문법』(歷代韓國文法大系／金敏洙他編, 第1部 第59冊) 박이정

김병건(2014)「{·다}와 {·어}의 변별과 담화에서의 효과」『한글』304 한글학회

김병제(1965)『조선어 방언학 개요(중)』사회과학원출판사

- 김병제(1988)『조선언어지리학시고』 과학백과사전종합출판사
- 김상원(1996)「중국에서 쓰이는 조선말 계청에 대한 사회언어학적고찰」『조선언어
문학론문집』 료녕민족출판사
- 김순희(2014)『중국 현대조선어의 문장종결법』 역락
- 김일성종합대학출판사(1977)『조선문화어문법규범』 김일성종합대학출판사
- 김향숙(2014)「반말계청의 등급설정에 대한 연구」『중국조선어문』 191 길림성민족
사무위원회
- 김희상(1911:1977)『朝鮮語典』(歷代韓國文法大系／金敏洙他編,第1部第7冊)탑출판사
- 남기심, 고영근(1995)『표준국어문법론 개정판』 탑출판사
- 노마히테키〔野間秀樹〕(2009)「대우표현과 대우법——몇 가지 시각」『한국어교육
연구』 4 배재대학교 한국어교육 연구소
- 동북 3 성《조선어문법》편찬소조(1983)『조선어문법』 연변인민출판사
- 럼광호(1990)「연변의 이중언어사회에 대한 분석」『이중언어학』 7-1 이중언어학회
- 문창덕(1990)「연변의 이중언어제에 관한 몇가지 고찰」『이중언어학』 7-1 이중언어학회
- 박경래(2003)「중국 연변 정암촌 방언의 상대높임법」『이중언어학』 23 이중언어학회
- 박경래, 곽충구의(2012)『재외 동포 언어 실태 조사』 국립국어원
- 박영순(1993)『현대 한국어 통사론』 집문당
- 방채암(2008)「연변지역의 한국어 종결어미 연구」대구대학교 국어국문학과 석사
학위논문
- 서상준(1996)『현대국어의 상대높임법』 전남대학교 출판부
- 서정수(1984)『존대법의 연구-현행대우법의 체계와 문제점』 한신문화사
- 심희섭, 리윤규(1990)「연변에서의 조선어방언 분포」『조선학연구』 2 연변대학출판사
- 연변대학 조선어계 조선어교연조,연변교육출판사 조선어문조(1972)『조선어문법(형태
론)』 연변교육출판사
- 오선화, 최성학(2014)「연변지역어 간접 인용 ‘-는/(으)ㄴ 매’에 대하여」『방언학』 20
한국방언학회
- 윤석민(2000)『현대 국어의 문장 종결법 연구』 집문당
- 이기갑(1997)「한국어 방언들 사이의 상대 높임법 비교 연구」『언어학』 21 한국어학회
- 이익섭, 이상익, 채완(1997)『한국의 언어』 신구문화사
- 이주행(2005)『한국어 사회 방언과 지역 방언의 이해』 한국문화사
- 이희승(1968:2009)『새문법』(歷代韓國文法大系／金敏洙他編,第1部第58冊)탑출판사
- 전학석(1996)『조선어방언학』 연변대학출판사
- 전학석(1998)「연변 방언」『새국어생활』 8-4 국립국어연구원
- 중국조선어실태조사보고 집필조(1985)『중국조선어실태조사보고』 민족출판사, 료녕민
족출판사
- 중국조선어실태조사보고 집필조(1993)『중국조선어실태조사보고』 민족출판사, 료녕민
족출판사
- 최명옥, 곽충구, 배주채, 전학석(2002)『함북 북부지역어 연구』 태학사

최윤갑(1994)『중국 조선 한국 조선어차이연구』한국문화사(영인)

최현배(1934:1977)『중등조선말본』(歷代韓國文法大系/金敏洙他編,第 1 部第 17 冊)
탑출판사

최화(2012)「기획주제:중국 연변 지역어 반말에 대한 연구」『배달말』51 배달말학회

한길(1986)「들음이 높임법에서의 반말의 위치에 관하여」『국어학 신연구』(약천
김민구 교수 회갑 기념) 탑출판사

한길(2002)『현대 우리말의 높임법 연구』역락

허웅(1968:2009)『표준 문법』(歷代韓國文法大系/金敏洙他編,第 1 部第 59 冊)박이정

황대화(1986)『동해안방언연구』김일성종합대학출판사

3. 中国語で書かれたもの

国务院人口普查办公室, 国家统计局人口和社会科技统计司(2002)『中国 2000 年人口普查
资料』中国统计出版社

国务院人口普查办公室, 国家统计局人口和社会科技统计司(2012)『中国 2010 年人口普查
资料』中国统计出版社

연변지역어의 친구간 담화의 발화형식 —문말형식에서의 서울방언과의 비교—

다카기 다케야

도쿄대학

본고는 연변지역어의 친구간 담화의 발화형식에 대해 서울방언과 비교해서 분석한 것이다. 분석한 결과, 완전문(完全文)의 대우법 체계는 연변지역어에서는 3등급으로, 서울방언에서는 2등급으로 분포하고 있으며 중도종료발화문(中途終了發話文)은 연변지역어에서는 방언형이 확인되는 것으로 밝혀졌다. 그 중에서도 완전문의 대우법 등급에 대해서는 다음과 같은 사실이 확인되었다 :

1. 친구간 담화(상관적 장면)에서 보이는 대우법의 기본등급은 연변 지역어에서는 ‘해라’체로, 서울방언에서는 ‘해’체로 각각 설정되어 있다. 즉, 각각의 변종에서는 해라체, 해체가 비격식체로 기능하고 있다.
2. 연변지역어에서도 서울방언의 영향을 받아 해체의 사용이 확인된다.
3. 서울방언의 해라체는 그 사용역이 한정적이며 담화의 방략으로 사용함으로써 일정한 발화효과를 가지는 유표적 어미이다.
4. 연변지역어의 40 대 담화에서는 ‘하오’체의 출현이 확인되지만, 10 대와 20 대 담화에서는 그 사용이 거의 나타나지 않는다.